「60周年事業報告書を読み解き、語り合う会」実施記録用紙

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催地域同窓会 | 静岡県地域同窓会 | | | | |
| 開催日時 | 2025年3月2日(日)　13:00～17:00 | | | | |
| 開催場所 | 静岡市　シズウェル　会議室101 | | | | |
| 開催形態・内容 | 通学・通信・経済学部卒業生を含み全体を2グループに分かれ実施した。訓覇先生よりテーマに沿った質問が出され討議し、お互いに報告するとともに先生の司会によりさらに全体で考察した。 | | | | |
| 実施後の評価 | 静岡県地域同窓会では、2023年度に60周年事業報告をテキストにして、参加者同士で大学時代を振り返る会を設けたが、趣旨も時間も中途半端となり、今回訓覇先生をお招きして改めて実施した。参加者は事前に報告書一部を抜粋して読み込み参加していた。  「第２部　同窓生にとっての日本福祉大学の社会福祉教育の展開　第６章　同窓生が語る日本福祉大学の教育と社会福祉の専門性」の記載されているポイントについて訓覇先生に解説していただき、各同窓生が振り返りながら、現在まで続く個々の社会福祉の実践と、違う年代の卒業生との共通する事、違う事について改めて考えを深めていった。  ①60周年事業報告書を読んでの感想→・抜粋された第6集は比較的読みやすかった。自分が学んだカリキュラムについての記載やフォーカスグループのコメントは興味持って読めた。更に訓覇先生より社会福祉の科学性についての時代による変化に合わせた本学カリュキュラムの編成と分析について学んだ。  ②母校の社会福祉の専門性は自分のポリシーと同じだったか。→教室で知識を詰め込むだけでなく、実践力や多様性、福祉の価値観について実社会で学ぶことについて大学カリキュラムがバックアップしていたのでは。社会福祉士資格取得に偏重しないように学べた講義もあった。  ③人生において教育の意義があったか。→他分野との連携や地域社会への働きかける気持ち、問題意識を持つことなど生かされている。9つの視座について再度確認した。最近の学生たちは何か足らない気がするが、それは何か。当事者意識・問題意識・フィールドワークする機会が少ない、消費は出来るが生み出そうとする主体性が乏しい等。  ④本学の教育は何を継承するのか。→人間教育。成功体験を育む失敗体験。「健学の精神」人を大切にする「科学性」「人間性」「実践性」共感力」継続して意欲のある学生が卒業して、仕事の中で先輩や同窓会活動等を通じて他者の体験や経験に共感力を持ってくれると良い。以前のように大学ゲスト講師として同窓生の経験を伝える機会があると良い。  「福祉」「幸せ」について自分の考えを語る事が出来るか。「ふつうのくらし」とは。幸せ、とは主観的、個別性、人それぞれ内的・外的な生活条件が異なるもの。 | | | | |
| 参加者情報・参加者数（　　　　　　11人） | | | | | |
| 氏名 | 年齢 | 性別 | 卒業年 | 学部 | 備考 |
| 増田　せつ子  奈良　修三  加藤　光良  三谷　千賀子  磯野　博  高林　重誓  久保田　和宏  奥村　美津子  遠藤　司  数納前同窓会会長  講師訓覇法子先生 |  |  |  |  |  |